

平成29年度 ケアハウス モアヤング 事業計画

(実績報告)

- 1 利用定員 60名
- 2 営業日 無休
- 3 営業時間 24時間体制
- 4 組織目標について

<経営目標>

・年間入居契約率100%の達成を目指す

安心・安全・快適なケアハウスでの生活の提供を通して、地域の社会福祉の向上に貢献すると共に、経営安定化と財務体質を強化する。

その為の具体的な取り組みとして、

- ① 各地域包括支援センターや各病院の退院支援室等、及び岡保・和田地区の住民（ボランティア・民生員）との関係性を密にして、新規入居につながる潜在的な入居見込者の情報を収集し、入居契約率の安定化に活かす。
- ② 定期的を開催する「茶房 もあやんぐ」に来られる地域住民との交流を通して、地域の独居高齢者等の情報を積極的に収集すると共に、競合施設（サービス付高齢者住宅等）には無いケアハウスの強みである、低料金・安心・安全・快適な生活の提供できる施設である点を積極的に情報発信し、潜在的な入居見込者を確保する。
- ③ 新たに始まる、総合支援事業を週1回（月曜日）開催して、入居者に更なる魅力を提供することで入居者満足度を高め、入居者自身にケアハウスで暮らす快適さを、家族・親戚・友人・知人等にアピールして頂くことにより、存在価値を高め、新規入居者の獲得につなげる。

<実績・成果・反省>

年間入居契約率100%の達成について

・H29年4, 10, 11, 12月、H30年1月は100%であったが、その他の月は、入居契約後に入居予定者の容態が急変し急逝、手術後の予後が悪く急逝、北陸豪雪の影響で、入居契約はしたものの、実際の入居には至らず、止む無く入居契約を白紙撤回する事案もあり年間入居契約率は99%となった。

<サービス目標>

・地域と共存し地域交流の拠点になるべく、社会福祉法人としての地域貢献に寄与する取り組みを行う

介護予防事業である予防通所介護事業は、平成29年度より総合支援事業へ一部移行する為、早急に対応できる仕組みを整えていく。

その為の具体的な取り組みとして、

①週1回（月曜日）開催される総合支援事業に、ケアハウス職員がパートナー職員として参加し、記録・実績・請求業務等の補助をする取り組みを行う。

②モアヤング前へ地域のコミュニティーバスのバス停が新設された為、今後は、入居者がコミュニティーバスを利用して外出し、地域住民との交流が深められる機会を増やす「外出型」の行事を実施すると共に、近隣住民の方がコミュニティーバスを利用し、気軽にモアヤングに来て頂き参加ができる「招待型」の行事を実施することで、双方向から地域交流を深める総合支援事業の利用につながる取り組みを行う。

<実績・成果・反省>

地域と共存し地域交流の拠点になるべく、社会福祉法人としての地域貢献に寄与する取り組みを行うについて

①総合支援事業に、ケアハウス職員がパートナー職員として参加し、作り物や料理・運動・脳トレ等、各々が考えた独自のプログラムを利用者に提供すると共に、総合支援事業利用者を8名に増加した。

②豪雪による運休期間はあったものの、コミュニティーバスを利用してケアハウス入居者が、年間のべ560回以上、近隣の病院受診や各商業施設・飲食店へ外出する等、近隣地域に出向く機会が増加した

(詳細は別添、平成29年度コミュニティバス乗車実績参照)。また、「茶房 もあやんぐ」の開催頻度を3ヶ月/1回から、2ヶ月/1回に増加し(H30年3月は、豪雪の影響で中止)年間5回開催。年間のべ60人の地域住民方に参加して頂き交流を深めた(詳細は別添、平成29年度茶房もあやんぐ実績報告参照)。

<業務目標>

- ・総合支援事業に速やかに対応する

新しく始まる総合支援事業については、初めて取り組む新規事業であり、未知の領域に手探りで取り組む為、早急に事業に対応できる確固たる業務体制を整備する。

その為の具体的な取り組みとして、

記録・実績・請求業務等を補助するにあたり、4月から総合支援事業がスタートする中で、実際に業務に取り組みながら、新たに発生する総合支援事業に関する業務のマニュアル等を作成することで、円滑に事業を実施できる一連の業務ツールを作成する。

<実績・成果・反省>

総合支援事業に速やかに対応するについて

- ・総合支援事業に取り組みながら、新たに発生する記録・実績・請求業務等を円滑に行う為の業務マニュアルを、図式化・イラスト化して作成した(詳細は別添、総合支援事業業務マニュアル参照)。

<職員教育目標>

- ・職員の個性を活かし顧客対応力を高める組織体制を確立する

職員個々の個性を尊重しながら、施設の更なる発展の為に、専門的知識の習得と福祉人材としての資質向上を目指し自己研鑽を行う。

その為の具体的な取り組みとして、

①職員マネジメント体制の向上にむけて、モアヤング職員としての標準行動とモデル行動の定着を図るために、職員各自が自己評価した上で、管理職による習熟度合いを確認する面談を定期的実施する。

②職員に対し外部研修への自発的な参加を促し、個々の見識を深めると供

に、外部環境の変化を肌で感じ、危機意識を持って日々の業務に取り組みながら、長期的に自己の能力開発に努める。

③特定施設入居者介護サービス提供施設へ視察に行き、具体的な情報収集を行うことにより、特定施設入居者介護サービス業務への理解を深めることで、入居者の重度化への対応力を高める。

<実績・成果・反省>

職員の個性を活かし顧客対応力を高める組織体制を確立するについて

①標準行動とモデル行動の定着を図る為に、職員各自が自己評価した上で、管理者による習熟度合いを確認する面談を、定期的を実施した（面談実績：6月、9月、12月、H30年3月）。

②介護職員研究会、栄養士研究会、相談員研究会へ定期的に参加。また、大塚製薬の指導員による熱中症対策研修や、虐待防止を主目的とした、リスクマネジメント研修会に参加し、自己研鑽に努めた。

③12月14日に、ケアハウス スプリングヒルズを視察。各職種の業務内容と課題、入居者確保対策等について意見交換を行った。

平成29年度 デイサービスセンター モアヤング 事業計画

(実績報告)

- 1 利用定員 35名（月曜日～金曜日） 10名（土曜日）
- 2 営業日 毎週、月曜日～土曜日（12/31～1/3まで定休日）
- 3 営業時間 午前8時30分～午後5時30分
- 4 組織目標について

<経営目標>

年間稼働率88%の達成を目指す。

取り組み内容

- ① 利用者登録数を35名にする。
- ② 毎月の居宅報告書を直接事業所へ持参し、担当ケアマネジャーとの信頼関係の構築と新規利用者の情報収集を行う。
- ③ 日々の利用者様の状況を、リアルタイムで担当ケアマネジャー等へ報告する。
- ④ 3か月ごとに「デイサービス通信」を作成・発行し、それを活用して福井市内の居宅支援事業所を訪問する。

<実績・成果・反省>

居宅報告書を直接持参し、日程が合わない時（年末年始や豪雪の時）は送付対応とする。ケアマネさんや他事業所の方とは常に情報共有できるようにしている。複数の事業所を利用している利用者様には、専用の連絡帳を作成し、状況を把握できるようにしている。

新規利用者23名。

4月（80.52%）	5月（86.06%）	6月（86.65%）
7月（94.61%）	8月（89.74%）	9月（90.22%）
10月（90.39%）	11月（86.98%）	12月（84.45%）
1月（80.65%）	2月（75.50%）	

<サービス目標>

利用者様が目標を持ち、達成感を味わってもらえるようにサポートしていく。

取り組み内容

- ① 利用者様の思いを引き出せるように、コミュニケーション法の工夫をする。
- ② 目標達成の為のプロセスを利用者様と職員と一緒に考えていくようにする。
- ③ 担当利用者様の事を一番に理解でき、全職員に発信できるようにする。
- ④ 今年度は、総合支援事業（基準緩和サービスA型）が開始される。利用対象者をケアハウスの入居者様とし、担当職員とパートナー職員と利用者様の声を聞きながら一緒に作り上げていく。

<実績・成果・反省>

担当利用者様のニーズを把握するとともに、個別機能訓練では、計画の段階から多職種が協働し、個々が日々の生活の中で、達成できるような目標設定し、その目標に向かって計画を実行している。

総合支援事業（基準緩和サービスA型）を4月から開始している。現在8名の方が利用している。予防給付相当サービスでは、現在2名の方が事業対象者として利用している。

<業務目標>

常に業務の効率化を考え、改善していく努力をする。

取り組み内容

- ① 月1回業務の検討会を開催し、見直しを行う。
現在の各担当者の担当業務の見直しを行い、これまで以上に業務効率を高めることで、新たな時間を捻出できるようにする。
- ② 週間、月間、年間予定表の見直しを行う。
- ③ 各担当業務の見直しを行う。

<実績・成果・反省>

月1回のデイ会議では、業務について問題点を洗い出し、見直しを実施。

日々のミーティングでは常に業務についての調整を行っており、働きやすい環境作りを心掛けている。

<職員教育目標>

地域包括ケアシステムの役割の理解と順応な対応ができるようにする。

取り組み内容

- ① 平成29年度より「介護予防・日常生活総合支援事業」の移行期間であり、全職員が把握できるようにする為に、年3回の勉強会を開催する。
- ② 外部研修へ積極的に参加する。
- ③ 経験年数に併せた資格取得の為の支援をする。

<実績・成果・反省>

「介護予防・日常生活総合支援事業」についての勉強会を1回開催。

外部研修へ参加し、デイサービス内で伝達研修を行っている。但し全スタッフが外部研修へ参加する事はできなかった。

平成29年度 モアヤング こもればいホーム 事業計画

(実績報告)

- 1 利用定員 80名
- 2 営業日 無休
- 3 営業時間 24時間体制
- 4 組織目標、ビジョンについて

経営目標

- ① 年間入居率96%を目指します。

入院で空床になった部屋を出来る限りショートステイで利用できるようにします。

又、居宅、デイサービス、ケアハウスと連携を密にしながら稼働UPします。

<実績・成果・反省>

平成29年4月～平成30年3月までの退去者25名

平成29年4月～平成30年3月までの入居者26名

平成29年4月～平成30年3月までの平均稼働率91.75%

入居し、短期間で退所者が(施設滞在日数50日程度)3名。

また、他施設へ移行も2名(1名は地域密着型へ、1名は多床室へ)前年度より入居者の超高齢化、重度化の傾向がみられていたが、「日常生活継続支援加算」を平成29年8月から算定中止、今後入居者の重度化傾向にも影響を与え、施設滞在日数は若干伸びると思われる。

教育目標

- ① 介護福祉士取得率向上に努める。

<実績・成果・反省>

介護福祉士取得者0名・介護支援専門員取得者1名。

② OJT・OffJTによる年間教育を行う。

<実績・成果・反省>

介護職員研究委員会・介護技術向上研修・介護力レベルアップ研修の3研修が一年間を通し参加、実施。

その他、外部研修では介護福祉士実習指導者講習会・ユニットケア基礎研修・見取りケア研修・感染予防対策研修会・新人研修福祉施設防災マネージャー養成研修・介護支援専門員研修会へ参加、実施。

③ 外部講師を招き勉強会を開催する。

<実績・成果・反省>

4月身体拘束委員会より虐待防止の勉強会（施設内）

6月におむつの外部講師による勉強会

7月事故防止委員会より誤薬についての外部講師による勉強会

8月感染委員会よりスキンケアについての外部講師による勉強会

9月事故防止委員会より危険予知トレーニング（KYT実践）

12月認定看護師外部講師による認知症勉強会

1月に事故防止委員会より移乗の実習の勉強会（施設内）を実施

家族との交流目標

家族との交流を深め、イベントに積極的に参加していただく。

<実績・成果・反省>

ユニット毎の行事を家族へお知らせし、一部の家族の参加ではあったが喜ばれる場となった。

8月には盛大に夏祭りを行ない、家族・地域の方共に参加して楽しんでいただいた。

ケアにおける方針

利用者一人ひとりの気持ちを大切に思いやりのある介護を目指します。安心、安全なサービス提供のため、気配りと心配りに努め、きめ細やかな対応をしていきます。利用者本来の生活スタイルに少しでも近づけるような介護サービスを提供していきます。

ご家族・ご利用者との信頼関係を構築し、地域社会とふれ愛の出来る環境作りを目指します。日々、介護・看護の知識の向上を目指し、介護のプロとして社会に貢献していきます。

<実績・成果・反省>

利用者の気持ちを考え、より思いやりのある介護士を目指す為、言葉使いのポスターを作成し、職員更衣室の目につく所に張り意識付けを行っている。また朝礼時には日々の代表者を指名し挨拶を唱和している。

特色と方向性について

利用者の思いと笑顔を大切に、個別ケアにて、生活機能の維持と向上を目指し、望ましい生活が出来るよう支援していきます。積極的に家族参加イベントを企画し、家族の希望、家族と利用者または地域の人たちとふれあう機会を作っていきます。「こもればホーム職員としての誇りと自覚を持つ」を目標に、職員研修・知識の向上に励んでいきます。

具体的な取組み

- ① 一年を通して、職員の面談を行い、仕事に対しての意欲や理解、ストレスケアを行い、目的や目標を共有し人材育成に努めていきます。一人ひとり職員の個人年間目標計画書を作成し、それも基に面談を行っていく。

<実績・成果・反省>

個別面談は6月～3月にて全職員終了。一人ひとりと面談を行なうことで個人の仕事に対しての思いや悩み、ストレスなどを認識する事で個人で掲げた年間目標の進捗具合を月ごとに個人で評価し、面談時に聞き取りを実施。年間で上がってきた問題点や思いストレスなどを軽減していくため、今後も随時検討を行なっていく。

- ② 自立支援に向けて、基本ケアを実践し、その人らしい生活が出来るよう支援していきます。

<実績・成果・反省>

水分の見直しと、各個人一日1500mgをめざして水分アップ行なった。センナ茶の摂取により下剤を減らしていくことを今も継続している。

- ③ ご家族参加企画・夢（やりたい事）の実現を増やしていきます。ご家族の方を身近に感じ、接する事により、社会性や視野を広めます。また、このような企画を作成し、達成することで職員のやりがいと活性化を図ります。合わせて、ご利用者の楽しみ・やりたいことも一つでも実現していきます。

<実績・成果・反省>

思い出作りのポスターを作成し、廊下やエレベーターに貼り、家族に参加していただけるようにしてきたが、今年度は実現しなかった。

④ 緊急時の対応を全員が確実にできるようにします。

日中・夜間帯等、人数が少ない時でも全員がスムーズに対応できるようマニュアルを周知していきます。また、定期的に研修を行い迅速で正しい判断・対応ができるようにし、ご利用者への更なる安心を提供していきます。

<実績・成果・反省>

職員に対し、定期的研修や、伝達する機会を設ける事は出来ていなかったが、7月と8月の二回に分けてAEDの講習会を消防の講師にて施設内にて実施。

⑤ 介護記録の目的として、「ご利用者の生活の証」と「提供者の支援の証」を残し、利用者の生活環境を把握し、情報の共有化・ケアの継続性や統一性を確保し、より質の高いケアを目指すために、継続して記録の勉強を実施していきます。

<実績・成果・反省>

記録の現状把握のため、前期に作成したチェック表にて、個々に回答した用紙を検討。出来ていない箇所や各ユニットのチェック表などを重点に見直し統一を実施。今後は排泄表など見直しをしていく。

平成29年度 モアヤング介護相談所 事業計画

(実績報告)

- 1 利用定員 35名 (常勤介護支援専門員一人あたり)
- 2 営業日 毎週、月曜日～金曜日
- 3 営業時間 午前8時30分～午後5時30分
(営業日、営業時間外の緊急時は24時間
電話連絡・相談対応可能)
- 4 組織目標について

<経営目標>

給付管理件数70件を継続します。

その為の具体的な取り組みとして

1. 入院時情報連携加算、退院退所加算の算定を徹底する。
2. サービス調整、担当者会議の開催、ケアプラン作成を速やかに行い、可能な限りその月の給付管理を行う。
3. 包括(あずま、大東)への定期訪問を行ない、委託や紹介があった場合、可能な限り断らず次につなげる。

<実績・成果・反省>

下期の平均給付管理件数70, 7件。年間を通して目標達成となった。新規の受け入れは、要介護7件、要支援2件。包括からの紹介が6件、他は本人や家族等からの紹介で新規へと繋がった。

認知症や身体状況の悪化により特養に入所が3件、ケアハウス退去で他市へロングショートによりサービス終了。また病状の悪化により長期入院のケースもあり、4月は給付管理件数が減少すると思われるため、次年度は積極的に包括からの新規を受け入れ給付管理件数を維持して行く。

<サービス目標>

基本に立ち戻りご利用者、ご家族にとってわかりやすいケアマネジメントを行います。

その為の具体的な取り組みとして

1. 介護サービスを始めて利用する人に対し、契約やサービス等各ケアマネがわかりやすく説明できているか確認し、その後のスムーズなマネジメントにつながるようにする。
2. サービス事業者との連絡ミスの防止を徹底し、ご利用者、ご家族との信頼関係を築く。

<実績・成果・反省>

重度化に伴い利用者一人の方が5、6箇所サービスを利用することが増えてきており、家族、他事業所、ケアマネが伴いミスの無いよう月間スケジュールを配布している。また大雪の際は独居の方のサービスが滞り、急なショートの対応や、受診の付き添い等を行い身体状況の悪化を防ぐことも出来、家族との信頼関係の構築につながっている。

<業務目標>

業務の効率化、作業の時間の短縮を図ります。

その為の具体的な取り組みとして

1. 市役所や各事業所への訪問、利用者宅へ訪問の効率化を図る。
2. 提供票の配布等手間のかかる作業を見直す。
3. 事務所での連絡調整の時間短縮を図る。

<実績・成果・反省>

提供票等の書類は、送付、来所時の手渡しを判別し、配布を実施。

訪問時や担当者会議のメンバー等を互いに確認し、簡略化に心掛けた。毎月のモニタリングを細かく文章で記入していたが、実施指導により、簡略化した方が良いと指導を受け、下期よりは以前使用していたモニタリングへ変更。日々の業務に追われモニタリングが稀に後回しになる事があるため、次年度はスケジュール管理にて実施していく。

<職員教育目標>

- ・困難ケースへ利用者への支援方法を身につけ、スキルアップを図ります。また総合事業に対する理解を深め、適切な介護予防ケアマネジメントが行えます。

その為の具体的な取り組みとして、

1. 事例検討会、多職種連携会議に積極的に参加し、支援困難ケースに対する理解や知識を深める。
2. 包括からの困難ケースの紹介を積極的に受け入れ、事業所間で情報を共有し、実際の支援を行い経験値を上げる。
3. 包括等が主催する総合事業の勉強会に参加し、理解を深める。

<実績・成果・反省>

下期は介護支援専門員更新研修（Ⅱ）を受け、様々な事例についてグループワークを行い、理解を深めた。また高齢者の虐待についての実態や訪問看護についての研修会に参加。

次年度は主任ケアマネ更新研修を予定。更新研修を受けるための研修へ参加していく。

今後、日々の業務の中で、新たにケアマネを育成できるよう、他の主任ケアマネの指導方法を学んでいく。また実ケアマネの指導状況を記録できるよう、タブレットの活用や音声認識システム導入を検討していく。